



日本医療研究開発機構（AMED）における がん研究について

平成 27 年 5 月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構
戦略推進部がん研究課

1. 設立趣旨、法人の業務

設立趣旨

■ 設立趣旨

医療分野の研究開発における基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進・成果の円滑な実用化及び医療分野の研究開発のための環境の整備を総合的かつ効果的に行うため、「医療分野研究開発推進計画」に基づき、医療分野の研究開発及びその環境の整備の実施、助成等の業務を行うこと。

法人の業務

① 医療分野の研究開発及びその環境の整備を行うこと

(例) 委託事業として、京都大学における iPS 細胞を使った再生医療の研究及びその研究に必要な研究機器の整備を行うなど

② ①の業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること

(例) 医薬品開発における基礎的な研究の成果を製薬企業等に紹介し、実用化開発を促進するなど

③ 医療分野の研究開発及びその環境の整備に対する助成を行うこと

(例) バイオ医薬品の製造技術の開発に対する補助、臨床研究を実施するまでの体制の整備のための補助を行うなど

④ ①～③の業務に附帯する業務を行うこと

(例) 国内外における研究開発・技術開発の動向調査、研究成果の広報、研究を通じた国際協力など

■ 設立日

平成 27 年 4 月 1 日

2. 医療分野の研究開発体制

健康・医療戦略推進本部

(本部長：内閣総理大臣)

- ①【健康・医療戦略】の案の作成及び実施の推進
- ②【医療分野研究開発推進計画】の作成及び実施の推進
- ③医療分野の研究開発等の【資源配分方針】
- ④新独法の【理事長・監事の任命】及び【中長期目標】の策定に当たっての主務大臣への意見等

理事長・監事の
人選への意見

中期目標
への意見

予算の総合的な
要求配分調整

所管府省

内閣府

文科省・厚労省・経産省

理事長・監事の
任命・解任

中期目標
の提示

補助金・交付金
の交付

予算の集約化

国立研究開発法人日本医療研究開発機構

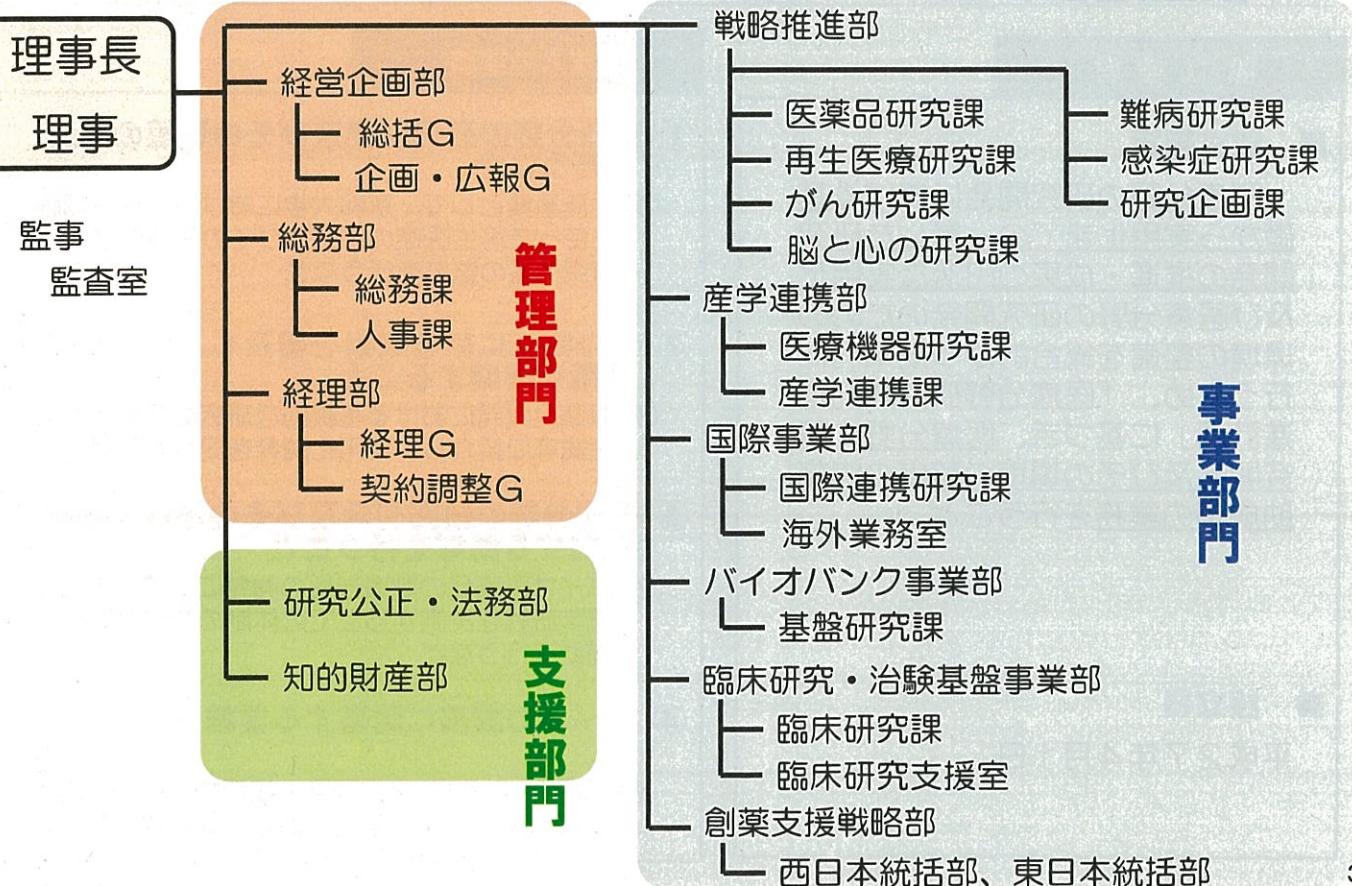
研究費等の配分
(委託契約等)

- 研究費等のワンストップサービス化
- 基礎から実用化までの一貫した研究管理

- ・研究支援と研究環境整備の一体的な実施
- ・基礎から実用化までの切れ目ない研究支援を実現
- ・基礎から実用化までの一貫した研究マネジメントを実現

2

3. 組織図



4. 予算額（H27）

	平成27年度	平成26年度	増減
予算額 [調整費]	1,248億円(文:598、厚:474、経:177) [175億円]	1,215億円(文:570、厚:476、経:169) [175億円]	33億円(+2.7%) [175億円]

① オールジャパンでの医薬品開発	211億円
② オールジャパンでの医療機器開発	145億円
③ 革新的医療技術創出拠点プロジェクト	106億円
④ 再生医療の実現化ハイウェイ構想	143億円
⑤ 疾病克服に向けたゲノム医療実現化プロジェクト	59億円
⑥ ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト	162億円
⑦ 脳とこころの健康大国実現プロジェクト	68億円
⑧ 新興・再興感染症制御プロジェクト	41億円
⑨ 難病克服プロジェクト	96億円

4

5. 法人に求められる主な業務

医療に関する研究開発の実施

■ プログラムディレクター(PD)、プログラムオフィサー(PO)等を活用したマネジメント機能

- ・医療分野研究開発推進計画に沿った研究の実施、研究動向の把握・調査
- ・優れた基礎研究の成果を臨床研究・産業化につなげる一貫したマネジメント

■ 適正な研究実施のための監視・管理機能

- ・研究不正防止、倫理・法令・指針遵守のための環境整備、監査機能

臨床研究等の基盤整備

■ 臨床研究中核病院、早期・探索的臨床試験拠点、橋渡し研究支援拠点の強化・体制整備

■ EBM(evidence-based medicine)に基づいた予防医療・サービス手法を開発するためのパイオニア等の整備

産業化へ向けた支援

■ 知的財産取得に向けた研究機関への支援機能

- ・知財管理、相談窓口、知財取得戦略の立案支援

■ 実用化に向けた企業連携・連携支援機能

- ・(独) PMDAと連携した有望シーズの出口戦略の策定・助言、企業への情報提供・マッチング

国際戦略の推進

■ 国際共同研究の支援機能

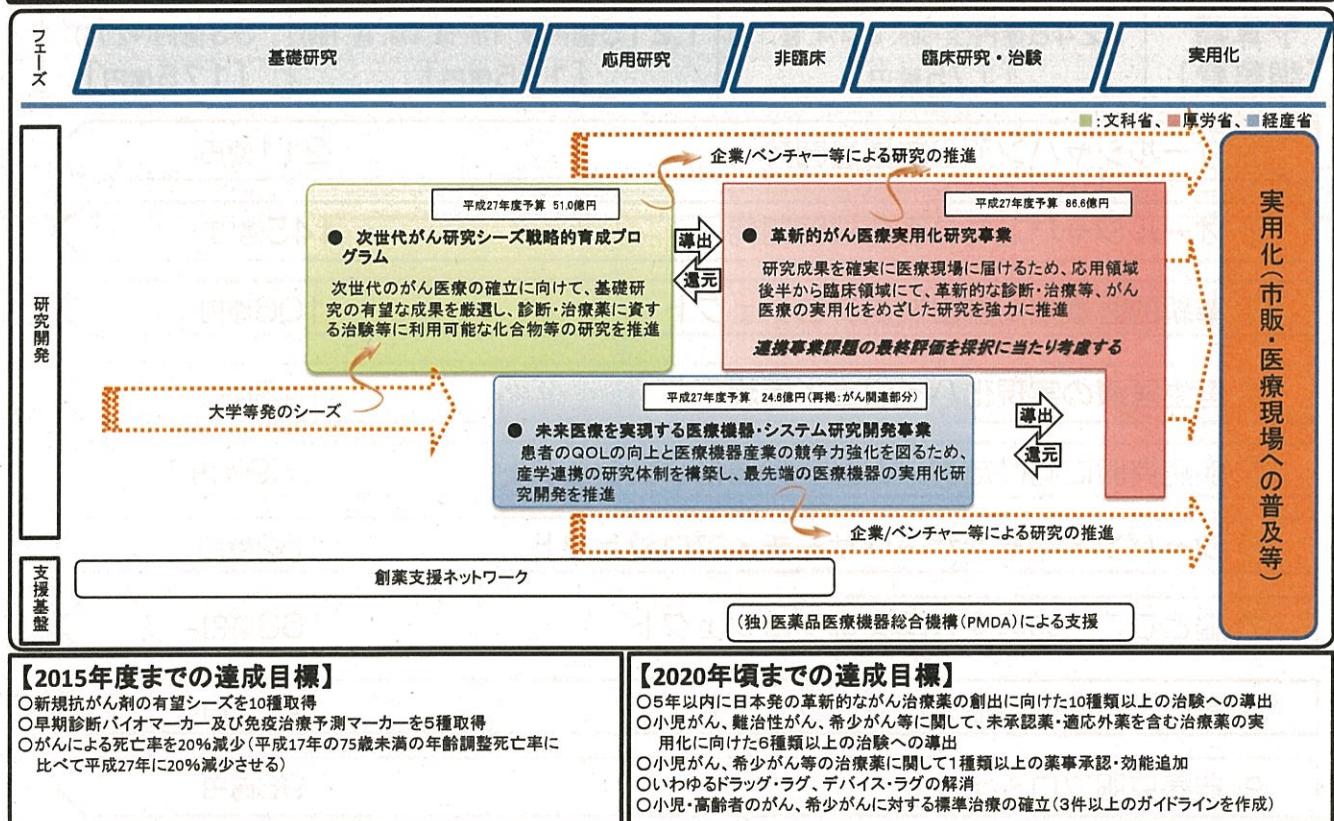
- ・国際動向を踏まえた共同研究の推進、医療分野に係る研究開発を行う海外機関との連携

5

6. ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト

日本医療研究開発機構対象費
平成27年度予算 162億円(一部再掲)

基礎研究の有望な成果を厳選し、実用化に向けた医薬品・医療機器を開発する研究を推進し、臨床研究等へ導出する。また、臨床研究で得られた臨床データ等を基礎研究等に還元し、医薬品・医療機器開発をはじめとするがん医療の実用化を「がん研究10か年戦略」に基づいて加速する。



6

AMEDがん研究課の担当事業概要

国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

AMED中長期目標

- ・5年以内に日本発の革新的ながん治療薬の創出に向けた10種類以上の治験への導出
- ・小児がん、難治性がん、希少がん等に関して、未承認薬・適応外薬を含む治療薬の実用化に向けた6種類以上の治験への導出
- ・小児がん、希少がん等の治療薬に関して1種類以上の薬事承認・効能追加
- ・小児・高齢者のがん、希少がんに対する標準治療の確立に向けた、ガイドライン(3件以上)作成に資する多施設共同臨床試験の実施

PD

堀田知光先生
国立がん研究センター

次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム (文部科学省:H23~27年度)

PS

宮園浩平先生
東京大学

革新的がん医療シーズ育成領域

PO 中釜 齊先生
国立がん研究センター

PO 加藤 光保先生
筑波大学教授

PO 三森 功士先生
九州大学病院

がん臨床シーズ育成領域

PO 森 正樹先生
大阪大学

PO 石川 俊平先生
東京医科歯科大学

創薬基盤融合技術育成
PO 高橋 智聰先生
金沢大学

革新的がん医療実用化研究事業 (厚生労働省)

PS

堀田 知光先生
国立がん研究センター

PO 中釜 齊先生
領域1 国立がん研究センター

PO 祖父江友孝先生
領域2 大阪大学

PO 米田 悅啓先生
領域3 医薬基盤・健康・栄養研究所

PO 末松佐知子先生
領域3 医薬基盤・健康・栄養研究所

PO 赤堀 真先生
領域4 東京大学

PO 佐野 武先生
領域5 がん研有明病院

PO 堀部 敬三先生
領域6 名古屋医療センター

PO 田村 和夫先生
領域6 福岡大学病院